

## 第一回実習志向式に寄せての辞

二年生の皆さん、今日は皆さんが実習に入るに当たって、先輩、実習先の看護師さん達から激励をうけ、その決意を新たにす第1回の実習志向式であります。

以前は戴帽式という形で看護師を目指す決意を確認しておりました。医療の歴史で言及したように、近代看護学はナイチンゲールのクリミア戦争、アメリカの南北戦争、日本にあっては第一次世界大戦などの戦争を契機に強化され、その意識の高揚として戴帽式が普及していきました。翻って、現在の病院では象徴としてのCapは完全に廃止され、ユニホームも実働的なものに様変わりしてきております。それを踏まえ今年度からは、Capを着ける意味が薄れるこの時流に沿う形で戴帽式を止め、それにとって代わるより実践的な実習志向式を行う事と致しました。

実習では今迄の座学とは異なり、実際の看護コミュニケーション力を養うこととなります。ナイチンゲールは「どんな仕事をするにせよ、実際に学ぶ事ができるのは現場においてのみである。」とその場その場での経験の重要性を指摘しております。即ち、皆さんは患者さんを観察し、言葉を交え、時には清拭のような介助などを行い、指導教員や看護師さんとはハウレンソウを繰り返していくこととなります。そういう実社会に係わることを通じて、患者さんや看護師を始めとする病院職員と触れ合う中で、自分自身を客観視し、その看護力を高めていくことを期待致します。バーチャルな世界の横行やITコミュニケーションが発達している昨今、第三者に直接触れ合うことが不得手な若者が増えているとの指摘があります。何事も「自分ではできない」と思った時点でそれ以上の成長は望めません。何度躓いてもかまいませんが、決して諦めてはいけません。皆さんは1年強の勉強で「周りの力も借りますが、自信をもって努力を続ければ必ず報われる。」というパスポートをもっています。実習は、目の前の病める患者さんが理解・満足する看護とは何か、即ち看護師の役割とは何かをその時々で考え、学ぶ場であります。自分の都合に左右されることなく、パスポートを胸に、強い心で実習に臨んで下さい。

二年生の皆さん、今から、我々と共に、更なる高みを目指して進みましょう。ご列席の皆様には引き続きご支援・ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。皆さんの目指す先には、夢にみた温かな笑顔の輝ける看護師の姿があります。

平成三十年七月三十日

釧路労災看護専門学校  
校長 野々村克也